

令和6年度 自己評価表

愛媛県立松山東高等学校通信制課程
学校番号 (20)

教育方針		教育基本法に示された教育精神にのっとり、心身共に健全な人間の育成を期する。		重点目標	1 自主自律の精神に富んだ人間を育成する。 2 絆を深め、自分も他人も大切にできる、豊かな心を育成する。
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
I 自学自習（自主自律の精神に富んだ人間の育成）	生徒の学びを深める報告課題の作成と添削指導の実践	1 生徒が自学自習しやすい設問を心掛け、生徒の学習に対する欲求を満足させる報告課題を作成する。	B	教科書と学習書をよく読めば解ける問題と、思考力・表現力を養う問題とのバランスを考えて作成している教員が多かった。	生徒が興味深く考えられるような問題を出題するなど、生徒の学習意欲を高める工夫をする。
		2 報告課題の誤答に対し、正確な解答と具体的な解説を示す。	B	取組が不十分な報告課題には、具体的な手掛かりを書き添えたり、分かりやすいヒントを示したりして、再提出時の足掛かりとした。	正答を導き出すために、手順を踏んだ解説を記入したり、より詳しい解説プリントを作成したりすることにより、自学自習を助けるようにする。
		3 生徒が意欲的に取り組めるよう、添削所見に工夫を凝らし、 <u>3行以上</u> の丁寧なコメントを記入する。	B	添削所見で生徒の視野を広げたり、次のステップを提示したりすることにより、生徒が意欲的に取り組めるように工夫した。	自学自習の取組みに改善が見られない生徒に対して、意欲を起こさせるコメントを記入するなど、特に手厚い支援を行う。
	生徒の学びを充実させる面接指導の実践	1 ICT機器の活用8割を目指し、生徒に分かりやすい授業を目指す。	B	動画やスライドを活用することにより、効果的な学習展開で分かりやすい授業を行った。	授業や学校行事などで、ICT機器を利用する機会を増やしたり、研修を行ったりすることにより、更に教員の技能を向上させ、生徒に還元できるようにする。
		2 面接指導におけるルールやマナーを徹底し、生徒が安心して学べる学習環境を維持する。	B	真面目な生徒の割合が増えたため、指導が必要になる場面が少なくなった。配慮が必要な生徒の学習環境について、注意を払う機会が増えている。	指導が必要な時は、その都度、生徒に声掛けを行ったり、コミュニケーションを図ったりすることで、生徒が安心して学べる学習環境を維持することを目指す。
		3 授業力向上のため、年間2科目以上の相互授業参観（全日も含む）を行う。 A：4科目以上、B：3科目、C：2科目、D：1科目、E：参観せず	B	通信制の研究授業にほとんどの教員が参加し、活発な授業研究会が行えた。また、全日制の研究授業等にも参加し、教科指導力向上に努めた教員も増加した。	通信制の研究授業だけでなく、校外でも授業改善を図れる機会を見つけて参加する。また、教科の枠を超えた授業参観の機会が増えるよう努める。
	生徒の学びを支援する学習進度表の作成や受講計画指導の実践	1 学習進度表を個別に作成し、面接指導への出席時間数や報告課題の提出状況を月に1度生徒に知らせる。	A	全ての教員が、学習進度表をきちんと作成することができた。面接指導への出席時間数や報告課題の提出状況を生徒に知らせることができた。	面接指導への出席時間数や報告課題の提出状況を常に確認し、生徒の状況を把握する。学習状況についての問合せにも適切に対応し、生徒の学びを支援する。
		2 年間の受講計画を個別で作成し、卒業までの学習計画を行う。	A	担任全員がクラスの継続受講生徒の受講計画を一緒に考え、確実に作成することができた。	相互点検を注意深く行う。また、担任の意見を参考にマニュアルの内容を見直し、個々の生徒に最適な受講計画を提供できるよう努める。
	適切な勤務時間を遵守するための業務分担の実践	1 ICT活用能力の向上を図り、業務の効率化に取り組む。	B	システム化が一層進むことで、効率化が図られる一方で、仕事量が増えたように感じることも多かった。	システムをより効率的に活用できるよう、教職員研修を充実させながら仕事内容の見直しを図る。システムの改善に向けた見直しがあれば積極的に協力する。
		2 ワークアズライフの考え方で、働きがいのある職場づくりに努める。	B	各教職員が、ワークアズライフの考え方で、休暇の取りやすい環境づくりに取り組むことができた。	引き続き、教職員にとって、明るく楽しい職場、活気ある職場の雰囲気づくりに努める。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針	
Ⅱ 友垣連携（絆を深め、自分も他人も大切にできる、豊かな心の育成）	生徒相互の絆を深めるための特別活動等の活性化	1 生徒会活動は、全生徒をもって組織することを意識付け、役員が計画・運営しやすいような環境づくりを目指す。	B	月1回の定例会では、新役員の意見もたくさん出て行事運営に反映することができた。また、各行事では、一人一役で計画や運営に関わることができた。	生徒会活動が学校の全生徒の協力のもとに成立していることを意識させ、生徒会行事を充実させるよう企画・運営しやすい環境づくりを目指す。	
		2 特別活動の内容を充実させ運営を工夫し、学校行事の参加者を増やし充実感を高める。	B	生徒が自ら取り組み、自己達成感を感じられる行事が多くなった。また、学校生活を通して、人間性を育む場となるような学校行事の企画・運営になった。	学校行事やホームルーム活動の内容を生徒の実態に合わせることで、参加者を増やし、充実感が得られ、活気ある活動になるよう努める。	
		3 サークル活動を積極的に奨励し、加入率を高めるとともに、大会等を目指し活動内容の充実を図り、加入率を上げる。	B	生徒会会報「ふれあい」や友垣通信で発信することで、サークル加入率の増加を目指した。加入率は昨年より3%上昇し、16%（86名）になった。全国大会には、体育系4種目で5名、文化系1種目で1名、計6名が出場した。	サークルの回数が年間6回と少ないが、サークル活動について友垣通信や生徒会報「ふれあい」等で周知し、加入率20%以上になるように努める。	
	学校との絆を深める友垣通信等の充実	1 職員全員によるチェック体制を強化し、より分かりやすく工夫された内容の友垣通信を発信する。	B	教職員全員で2回以上の確認を行い、正しい情報提供ができた。活動報告の充実を目指し、内容を精選してカラー印刷も検討したが、予算の関係上、実現しなかった。	必要事項が、より適切に伝わりやすくなることを目指す。学校行事の予定や報告を工夫し、親しみがあがり、行事への参加を促せる記事になるように努める。	
		2 友垣通信と掲示板・ホームページ（1日300件以上の閲覧を目標）の内容を関連付け、総合的で魅力的な情報提供に努める。	B	生徒がホームページを活用しやすいよう、生徒や保護者等の意見を参考に、魅力的な情報提供に努めた。新校開設に係る情報をアップし、関係者が知りたい情報を掲載するよう心掛けた。	生徒は、新校の情報をホームページで得る機会が多いと思われる。本校から新校へスムーズな移行ができるよう、適宜、必要な情報を提供できるよう努める。	
	「来てよかった学校」づくりの実践	1 通教生活を送るうえで、ふさわしい態度やマナーを身に付けられるように関わる。（授業中、学習室の利用など）	B	挨拶やマナーの指導など、具体的な生活指導を行い、基本的な生活習慣の確立ができた。生徒への声かけを全教職員で行い、生徒の意識の向上が図られた。	生徒に対しての言葉掛けや注意等をすべての教職員が同じ対応をすることで、通教生活を送るうえで、ふさわしい態度やマナーを身に付けさせる。	
		2 立ち番や校内外の巡視によって生徒の様子を把握し、安心・安全な環境づくりに努める。	B	年度によって入学してくる生徒の実態は異なるが、面談や声掛けにより、校内外での生徒の様子を把握し、安心して学校生活を送る環境をつくることのできた。	生徒に挨拶したり、声を掛けたりすることで、生徒の様子を把握し、安心して学校生活を送れるように支援する。	
		3 進路に関するホームルーム活動の出席率を全校生徒の30%以上にする。 A:30%以上、B:25%～、C:20%～、D:15%～、E:15%未満	A	進路に関するホームルーム活動は、前期に2回、後期に1回行っており、3回の参加人数の合計は、全校生徒548名中274名、50%であった。昨年（31%）と比較し、大きく上昇した。	毎回、学習段階（年次）にあわせた3つの講座を開設している。進学を希望する生徒が増加する傾向があり、生徒のニーズに合わせて、一層、内容の充実を図る。	
		4 心身ともに健康な体を自己管理し、健康への意識高揚を図るために、入学生の健康診断受診率を90%以上を目指す。 A:90%以上、B:80%～、C:70%～、D:60%～、E:50%未満	A	入学生の健康診断受診率は、90.0%であった。2年続けて受診率が下がったが、依然として生徒の意識の高さを感じた。二次検査を必要とする生徒には、適時呼びかけをし、ほぼ再検査をすることができた。	入学生の健康診断の必要性を説明し、健康への意識高揚を図り、全員が受診するように呼びかける。	
		5 温かい声掛けやスクールライフアドバイザーの活用を通じて、教育相談の充実等を図り、相談しやすい環境づくりに努める。	B	より相談しやすい環境づくりのため、相談室の位置を、目立たず、かつ自然に行ける場所に移設できないか検討した。次年度新校に移転する際に、改めて検討することにした。	SLA相談については、増えてはいるが、掲示や配布物等で更に多くの生徒が気軽に相談しやすい環境づくりに努める。	
	※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。					